

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（派遣）
研究交流報告書

報告日：2019年3月29日

派遣者所属名	工学研究科市民子学専攻
派遣者氏名	祇園景子
本学ホノルル拠点が設置されているJapan-America Institute of Management of Science (JAIMS) が、株式会社FUJITSUユニバーシティと協働し、ハワイ大学マノア校Shidler College of Businessの協力を得ながら提供している人材育成プログラムGlobal Competency Development Program (GCDP) を視察した。本プログラムは、株式会社富士通の若手社員が約25名が課題解決型学習(PBL)を通じてデザイン思考やマネジメント並びに英語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーションスキルの向上を図る1週間の研修である。研修生は、人事、セールス、エンジニアなど異なる分野から選抜され、JAIMSに来るまでに約半年間、日本で英会話や海外ビジネスの基礎知識を習得するためのカリキュラムを受講した後、JAIMSでのプログラムを受講する。本プログラムを設計・実施しているJAIMS・Kazuyuki Akino (Vice President) とConstantino Paranal III (Director)、Steve Novac氏、Atta Su氏らと情報交換を行ったところ、GCDPを受講した社員の中には、帰国して富士通で数年働いた後、離職する者がいることが分かった。原因は、デザイン思考などのイノベーションに必要とされるマインドセットを習得したにもかかわらず、それを理解できない上司との考え方の違いから転職を希望するようになることである。革新的な教育プログラムを提供する場合、輩出した人材が活躍できる場を同時に準備する必要があることが窺えた。 ハワイ州は、2045年までに再生可能エネルギーの100%普及を州法で定め、そのビジョンを「Hawaii 2050 Sustainability Plan」にまとめている。本プランには、① A Way of Life、② The Economy、③ Environment and Natural Resources、④ Community and Social Well-Being、⑤ Kanaka Maoli Culture and Island Values の5つのゴールが示されている。特徴的なのは、⑤のマオリ民族の文化を尊ぶ項目が含まれていることである。ハワイ州には、白人はもちろんのこと日系人を含むアジア人、近隣諸島から移住してきたポリネシア人、アフリカ系移民など多様な民族が住んでいるにも関わらず、持続可能社会を象徴するハワイ語やフラに対する敬意がプランの中に散見される。ハワイ文化に詳しいYoshiko Scion氏と意見交換を行ったところ、ハワイには多様な人たちがお互い敬意をもち、共感する文化が根差しており、その文化がハワイのダイバーシティ社会のビジョン策定の鍵となっていることが分かった。	

海外派遣終了後の研究交流の進捗状況（2020年2月現在）

2020年度にJapan-America Institute of Management Scienceと本学の再生可能エネルギー社会実装研究センターと共同して再生可能エネルギーの未来像について検討するワークショップを開催する予定にしている。

海外派遣終了後の研究の進捗状況（2021年3月現在）

派遣先であるJapan-America Institute of Management Science (JAIMS)・Kazuyuki Akino氏と協働して、2021年度に再生可能エネルギーをテーマとして課題解決型学習（Project-Based Learning：PBL）を実施することを計画している。定期的にテレビ会議を行い、その準備を進めている。